

【目的】今日の日常のつきあい行為の中でもホームパーティはメディアの中では現実以上の期待がこめられてその方法や対応までが商品化されていることが多い。しかし正式な接客にありがちな堅苦しさを排除し自由で気楽な雰囲気をもつホームパーティは現実の住空間の中で苦勞は多いがその願望は強いと感じられる。本報告では首都圏居住の人々のホームパーティの実態を探りながら住居形態、家庭状況などとの関係を考察したものである。

【方法】調査対象は多摩ニュータウン内の居住年数、住戸規模に差異が認められる3団地とした。調査の方法はアンケート各戸配布とし回答者の返信をもって有効な調査対象とした。調査期間は1993年7月下旬、アンケート郵送数は342、有効回答数は114であった。今回の調査では特に妻を中心としたつきあいの状況とホームパーティの現況についての分析を行った。

【結果】ホームパーティは住居規模との関わりは低く年代の低い家庭程活発であることが判った。家庭と子どもと職業との間で時間に追われ余裕のない生活を送っている人同士のつきあいはホームパーティという形で発散されている傾向が強い。子ども連れでも参加でき、話題に中心性のある近所同士気の合った仲間、互いに人を選びながらも年に数回は場を交替しながらパーティを開いている。時間帯では平日の昼間が多く、土日の昼、土日の夕方となっている。パーティの場の要望として多い住戸の型はLDK型で、ユカ座の洋室、和室と洋室による続き間形式など広さとスペースの柔軟性への関心が高い。リフォーム実施とパーティを開く頻度との関係は強い。